

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371100431		
法人名	特別医療法人 再生会		
事業所名	認知症対応型共同生活事業所 めくもり		
所在地	熊本県宇土市松町1907		
自己評価作成日	H21年10月31日	評価結果市町村報告日	平成21年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成21年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一昨年より取り組んでいる利用者同士の支え合いが実を結んできており、職員が少し介入するだけで、互いに声をかけながら、ひとつの事を成し遂げていられる。成し遂げることで達成感が芽生え、楽しみとなり心の充実があるのだと思う。とは言え、些細なことでの諍いもある。しかし、それは自分を表出することができているから発生することではないかと思っている。諍いの際は、嫌な場面が残らないよう互いをフォローしている。
現在看取りをおこなっている。課題もあるが、自分の好みの物を食べたり、家族や馴染みの利用者やスタッフが声をかけることで生きる支えとなっているのではないかと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

キッチンから賑やかな声と美味しい料理の匂いに誘われての訪問となりました。中に入ると入居者と職員が協力し合いながら昼食作りの最中でした。雑穀米とクリームコロッケをメインした昼食は、和気藹々と楽しい食事でした。具合がすぐれず一寸遅れて食卓に座った方に、声かけや励ましをする人・そっと見守りおかずを取り分けてやる人など入居者同士の支え合いに心打たれました。職員の思いが形にあらわれている様子を窺う事が出来、心和む一時を過ごすことが出来ました。今後も、継続して支援してほしいと思います。更に認知症や認知症ケアの啓発に取り組まれることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや勉強会の際唱和している。日々の生活の中で理念を意識し、ケアに行き詰まった時、理念に沿ったケアとは何か、どのようにしたら理念に沿ったケアができるか、職員同士で理念を共有し確認し合いながらケアを行っている。	月1回のミーティング時・勉強会の折に唱和している。日々のケアの中においても常に理念を意識し、職員同士共有しあいながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や庭掃除の時に挨拶を交わしたり、回覧板を渡しに行った先でお茶をいただいたりしている。地域の方や友達の訪問もある。地域の老人会に加入し清掃作業に参加している。	地域とのつきあいは、隣接地に小規模多機能が出来たことにより、交流やつながりが多くなっている。以前からの友人等の訪問に加え、散歩時や庭掃除の時の挨拶の機会が増えてきている。地域の夏祭りや運動会・文化祭などにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中・高校の職場体験、専門学校の実習の場となっている。また、地域の認知症の啓発活動にも参加している。民生員等向けに認知症の勉強会も開催した。地域の方が訪問された際には血圧測定などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況報告に留まらず、問題点の報告も行っている。施設側の取り組み姿勢も示している。また困っていることは一緒に考えていただいている。新たに包括・民生員・区長にも参加していただくようになり意見も活発化してきた。	定期的に会議が開催されており、メンバーは行政担当者や区長・老人会・ボランティア・家族の代表者と多彩である。ホームの現状・活動報告のみならずホームの課題・相談事などについても活発な意見討議が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者に不明なことなど何でも相談している。市町村のアドバイスで業務改善につながった事もある。	運営推進会議にも行政担当者の参加があり、常に情報交換が行われている。またホームの相談事などが有るときは、気軽に話しを聞いてもらえる間柄である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	皆が身体拘束による心身の弊害を知っており「めくもり」はどんなことがあっても拘束は行わないということを理解している。行動障害などある場合も試行錯誤していく中で拘束しないケアを実現している。職員の拘束への意識を確認するためアンケートも行ったオリエンテーション時も伝えている。	全職員が身体拘束に対しての弊害を充分理解しており、日々、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。拘束のとらえ方を多方面から意識・再確認するためのアンケートを元に研修時にはフォローアップを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても研修を行っている。研修の中で心理的な虐待もあることを伝えている。勤務表作成時趣味や気分転換を行いストレスが溜まらないよう配慮している。また、地域の勉強会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度は多くの職員が外部の研修に参加した。今後は勉強会の開催や母体に専門職がいるため連携を図っていこうと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に必ず重要事項説明書その他の書類を元に説明を行っている。また、質問や不明な点、介護に対する要望なども聞き納得いただくまで対応している。施設側の一方通行にならないように一つひとつ確認しながらすすめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	先日利用者・家族へのアンケートを行った。今後も定期的に行い運営に役立てたいと思っている。質問内容も検討したい。家族に何でも話していただけるように面会時に配慮し対応している。家族会の設立は検討中。	家族との関係作りが良好に出来ており、家族会は、和気藹々と懇親の場となっている。相談事などの他、家族の体験談などの話は、参加者に好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今後職場懇話会を立ち上げ、めくもり運営会議に意見を提出し運営に反映させていきたい。	話し合いは、記録してファイルに綴じ内容が分かるようになっていく。	優先順位を考え運営に反映できるような仕組みを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、面接等を通し個人の状況を把握し向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備を考え取り組んでいこうと思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が研修を受ける機会が得られるように取り組んでいる。資格取得のため取り組んでいる職員もいる。受けたい研修等があるときは希望をできるだけ聞き入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年地区の連絡会で職員同士の交流会を行っている。その際は多くの職員の参加を呼びかけている。また、定期的な勉強会での交流もある。同業者の訪問があるときはホーム内を案内し意見を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に入所当初は本人の居場所づくりを心がけている。本人の要望に耳を傾け、安心が得られるようよう、職員が介入し他入居者と自然な関係づくりができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず家族の要望を利用時は聞き配慮している。また、家族を入所をが負い目に感じさせないよう家族の言葉を受容し安心できる言葉かけを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅利用中の方は、グループホームでいいのか、家族や担当ケアマネと話し合い、他施設利用されているときは担当者で十分話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事全般を利用者と一緒に行う中で、長年の経験から入居者に教えていただくことも多い。自然な形でお互いが支え合えるような関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思い・家族の思いを伝え合いながら、本人と家族の潤滑油になれるよう心がけている。めくもりを利用されたことで絆が深まった家族もおられる。毎月家族に手紙と写真を送り、遠方の家族にも関係が途切れないよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用できるよう支援したり、友人が訪ねて来られた際、ゆっくり話せる環境の提供・再度訪問していただけるよう心がけている。自宅へ帰られた際は近所やお寺に立ちよったりしている。	以前からの馴染みの美容院には、職員が送って行き、カットなどが終わったら迎えに行っている。近くの神社への参拝や友人関係の継続支援の環境を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士がつながりあえるような言葉かけや場の設定を心がけている。心がけて行うことで変化がみられるようになり、利用者同士の声かけや語りも多くなり、利用者同士の関わり合いが増えた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特老に入所された方に面会に行ったり、亡くなられた方にはビデオや写真を手紙を添えて送ったりしている。入院された方で退所後に遊びに来られた方もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを個々に聞いたり、家族に聞いたりしているが、上手に表現ができない方や良く理解できない方など多い為、日頃の会話や生活の様子をみて、また生活暦も参考にしながらアセスメントしている。言葉で表現できる方であっても言葉の裏にある真意・思いにも考えをめぐらせていくようしている。	本人や家族に聞いたり、難しい場合は生活歴や日常の生活の中から意向の把握に努め、一人ひとりの想いを理解し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活リズムや過ごし方を大切に、本人の思いや心身の状況を踏まえながらできる事、できない事を判断し、アセスメントしている。入居時に情報を得ているが、それだけでは不十分な為、日常会話の中やご家族の面会時に情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活リズムや過ごし方を大切に、本人の思いや、心身の状況を踏まえながらできる事できない事を判断し、アセスメントしている。利用時の聞き取り・面会時の情報交換に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意向を聞き、医療的側面が強い方は医師・看護師含め話し合いを行い、ケアマネを中心に職員間で話し合いを持ち、本人や家族の意見をできる限り反映させ総合的に判断しながら作成している。	入居者に関わりがある方々の話や意見等を参考に定期的にモニタリングを全職員で行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人や家族からの意向を聞き、医療的側面が強い方は医師・看護師含め話し合いを行い、ケアマネを中心に職員間で話し合いを持ち、本人や家族の意見をできる限り反映させ総合的に判断しながら作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能を併設しており、入浴を拒否される方でも多機能での入浴ならスムーズに入られる。また、散歩の時に多機能の職員や、その他併設の職員、患者様の声かけがある。併設の職員や利用者との馴染みの関係もできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に消防署・駐在所など運営推進会議に参加いただいている。また包括・市・民生員・区長・老人会長・元保健師の参加もあり地域に出た時協力いただくこともある。ボランティアの訪問も多い。保育園児とのふれあいも楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を聞きながら希望の病院を受診していただいている。定期的・突発時の往診もある。必要に応じ看護師の付き添い、付き添いが困難な時は手紙や電話で情報提供をしている。家族の医療に対する希望などの把握にも努めている。	本人や家族の希望に沿って、かかりつけ医の受診を支援している。家族とは、情報の共有を常に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置を行っており、不在の際はオンコール体制をとっている。母体の看護師との連携も取れており夜間看護師が到着するまでの対応を依頼することもある。併設の多機能の看護師との連携も取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を行うとともに、何か不明な点があったら、いつでも連絡いただくようにしている。食事が低下している方には病院に出向き何度も本人の意向や嗜好を伝え、一緒に検討している。面会時は情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの指針を伝え、実際看取りの場面となった時、再度事業所の指針を具体的に伝えている。同時にスタッフの意向を聞き取りスタッフの気持ちを大事にしながら終末期の介護について、具体的な観察事項を明確にし不安の軽減を行ったり地域の担当医や母体病院の医師との連携にも努めている。	看取りに関して指針が文書化しており、入所時に説明している。実際にその場面になった場合は、再度担当医や病院・家族との連携を図り支援している。また職員の不安の軽減などフォローするようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低でも年に1回は数名の応急手当普及委員が中心になりAEDを使いながら応急手当や初期対応の訓練をおこなっている。同時に緊急時の連絡体制、ケース別の対応方法も勉強している。毎月色々な場面を想定した救急訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防・駐在所の方に運営推進会議に参加いただいている。年に一度母体も交えた非難訓練、月に一度具体的な災害を想定した防災訓練を行っている。	年に1度は、法人全体で実施し、ホーム単独で毎月救急対応と災害想定で訓練を行っている。消防署や駐在所の職員が運営推進会議に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域の学校からの職場体験・実習時、ボランティアなどの際個人情報の漏洩について十分説明し書類を交わしている。職員もプライバシーには気を使っており、一人ひとりの尊厳を大事に関わっている。排泄・入浴が必要な方でも状況をみながら場を離れたりするなど配慮している。	職員は一人ひとりの尊厳を大切に、プライバシーに配慮してケアに努めている。またボランティア受け入れ時も個人情報の保護に対して説明し同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に合わせた声かけを行い、思いや希望など出来るだけ表出できるようゆっくりとした雰囲気の中で聞くことを心がけている。表出が難しい利用者においても些細な行動や言動から思いを汲み取るようにしている。日常生活の中で衣服選び、メニューなど選択できる場面を多く作るようしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日のペースを大事にしている。その日の状況次第では少し遅れて食事やおやつをとっていただいている方、買い物の希望があり一緒に行ったり、一人で過ごされたいときは、寂しさを感じさせないようにしながら支援したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては基本的に本人の意向で決めており、散髪の希望があればすぐに馴染みの美容院に出向いている。紙染めや化粧やマニキュアを楽しまれる方もある。好きな衣服や思いのある服を着用し楽しめる方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決めていただいたり、一緒に買い物に行ったりしている。準備や片付けも一人一人の力に応じ出来ることを手伝って頂いている。季節の野菜を収穫し料理に使うことで、普段無口な方が饒舌になられることもある。	入居者の希望やその時々に応じてメニューも入居者に決めてもらったりもしている。その人の能力に応じて食事の準備や後片付けも一緒にしている。食事中も入居者同士の支えあいが見られ、にぎやかで楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調を考慮しながら、個人の摂取量を把握している。摂取量が少ない方は嗜好品を提供したり、他の利用者に勧めていただいたり、本人の心が動く方法で摂取いただくこともある。食事形態の工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声をかけ行っていただいている。本人の状態により洗面所も使い分けている。身体状態が悪化している時は口腔ケアを行ったり、食事の合間に摂取された後はお茶を最後に摂取していただくよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのサインや排泄パターンをみながら行っている。認知症の重度化により声をかけても、すぐに排泄につながらない方もあるが、尊厳を大事にし状況をみながら対応している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その時々々の状況を見ながら対応し自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食物や水分摂取の工夫や毎日運動を行うなどし予防している。また、個別に飲食物の工夫も行っている。運動が思うように出来ない、腹部膨満などの方に対してはマッサージなども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したいタイミングを逃さないよう、入浴したい時にいつでも対応できるようにしている。また、菖蒲湯など季節の入浴もおこなっている。体調によりできない時は足浴なども提供している。	希望に沿った入浴支援をしている。ホームの風呂場が広すぎるため、望まれれば新しく出来た小規模多機能での風呂も使用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を促し、天気の良い日には一緒に布団を干したりシーツを洗濯している。夜間眠れず起きておられる際は、温かい飲み物の提供や対話等を行い安心して休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や作用については直ぐ見れるところに処方箋を置いている。内容変更時、特に観察が必要な時は記録に残し伝達している。高齢の為少量でもリスクへつながることがある、看護師を通じ理解を深めていき、何か小さな変化でも気がついたときは報告を行うようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水かけ、食事づくり・食事の準備や片付け・掃除など家事全般において利用者の役割や力が発揮されている。季節の行事も力が発揮できる場面であり多くの方が主役となり楽しめるよう配慮している。特別な日の飲酒を楽しみにされている方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに出かけたり近所の祭りや行事に参加されている。天気の良い日は皆で弁当を作ってホームの前の屋外で食べていただいている。最近家族への呼びかけが少なくなっていたので取り組んで行きたい。	地域の行事参加やドライブの他、日常的には、隣接のグラウンドや軒下のベンチに腰を下ろし、職員や入居者同士の会話を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所持されている方は、売店や外に行った時に自分で精算していただいている。自分で所持されていない方も金額を伝え預かりからだすことは伝える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用してよいようにしている。プライバシー確保のため使用時は事務所を閉めている。家族への手紙に自分で作成された作品や写真を同封している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下・居間には季節の花や手つくりの作品などを置き楽しんでいただいている。また外には季節の野菜を植えており、部屋から見える方は収穫を楽しみに眺められている。温度・湿度管理にも配慮している。	壁飾り等の作りかけの材料が共有スペースの一角に無造作に置かれているなど雑然としているものの、庭先の花が玄関や食卓に彩りよくおしゃれに飾ってあるなど我が家を感じる心落ち着く共有空間を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ・2箇所のウッドデッキ・こたつ・畳などを取り揃えており、それぞれお気に入りの場所がある。特に廊下のソファで気の合った方と語らいは楽しみのようである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さな仏壇や家で使われていた椅子や花など、今までの思いでも大事にしながら過ごせるように配慮している。活動で製作された季節の作品も本人の希望を聞きながら壁などにかけている。それぞれにこだわりを持って物を置かれている。入居時は本人や家族に確認しながら部屋づくりを行っている。	一人ひとりの個性を感じる居室造りが支援されている。自室の掃除も入居者と一緒に行なうなど相談しながら居心地良い部屋造りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋がわからない方のために廊下やドアの取っ手に目印をつけている。トイレ掃除が可能な方はブラシを置いている。掃除ができる方は雑巾やほうきを見えるところに置くことで、心と身体が動きいつまでも自立した生活が送れるように支援している。		

目標達成計画

作成日: 平成 21 年 12月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員の提案や意見を聞く機会を設け運営に反映できる	職員懇話会を立ち上げ職員の意見や提案を聞く機会を設ける	①担当職員を決め月に1回開催のミーティングにて意見を聞く ②ミーティング以外の時でも意見を出せるように、懇話会ノートを作成しいつでも記入できるようにする	2ヶ月
2			懇話会の意見を運営に反映する	①ミーティングにて課題話し合い、残った課題はぬくもり運営会議にて検討し運営に反映する ②課題が残った場合は引き続き審議する	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。